



Title	否定的評価における連用形名詞の役割について : 「貼りが汚い」を例に
Author(s)	ズオン, ティ ホア
Citation	日本語・日本文化研究. 2016, 26, p. 84-91
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/59658
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

否定的評価における連用形名詞の役割について ～「貼りが汚い」を例に～

ズオン ティ ホア

1. はじめに

動詞連用形が名詞として使用されるものの中で、「受けがよい」や「読みが速い」「滑りがいい」など、「連用形名詞＋が＋様態述語」が慣用句的に使用されるものが少なくない。また、一般的に、動詞連用形は名詞化できるものと名詞化できないものによく分けられているが、名詞化できると思われる動詞連用形であってもそうでない動詞連用形であっても、この「連用形＋が＋様態述語」の構文の中で使用されると、用例が多く出てくることが観察される。例えば、「貼り」や「履き」等、一見、名詞化できそうにない連用形もこの構文では用例が多く採集できる。なぜ、単独の動詞連用形では容認度に大きく差があるにもかかわらず多くの連用形名詞がこのような構文の中によく出てくるのか、この構文の使用により表現としてどのような効果があるのか、本稿では「評価の場面」、特に「否定的評価の場面」との関連性に着目しながら、この構文における連用形名詞の役割を明らかにしたい。

2. 構文「連用形名詞＋が＋様態述語」と動詞連用形の名詞化の関係

2.1 Shen (2013) による連用形名詞の自律性の段階

「連用形名詞＋が＋様態述語」という構文については、先行研究にも見られる。Shen (2013) は、連用形名詞と呼ばれるものの中には、実際使用される時に普通名詞と同じように使われるものもあれば、たくさんの文法上の制限があるものもあることを指摘した。Shen (2013) はコーパスを利用して、連用形名詞の使用実態を調査し、連用形名詞とそれが置かれる文脈との関係などを基準に連用形名詞の自立性を3段階に分けた。それぞれタイプ1、タイプ2、タイプ3と名付けている。タイプ1とは自立タイプで、連用形名詞のうち、「ガ格」「二格」「ヲ格」「デ格」など、様々な格にたつことができ、普通名詞と機能的に似ているタイプである。タイプ2とは特定の文脈のサポートを必要とする「構文補助タイプ」というタイプで、このタイプはさらに以下に示すA,B,Cの種類に分けられる。

- A: 「主体＋の～」構文が必要なもの
- B: 「(は/の) ～が…」 「様態」構文が必要なもの
- C: イディオム

タイプ3とは内項・付加詞複合語タイプである。このタイプに属する連用形は名詞などの要素と結合して複合語になってはじめて名詞化できるという。例えば、「編み」は単独では名詞として使用されないが、他の要素と結合して「毛糸編み」等の複合語になれば名詞化できる。

以上の Shen (2013) の分類で、「腐りが早い」や「滑りがいい」などの「腐り」や「滑り」はタイプ2のBに属している。このような「連用形名詞＋が＋様態述語」という構文と一緒に慣用句的に使用される連用形名詞は、一つのグループとしてまとめられるほど数が多い。しかし、Shen (2013) では、ただこのような現象があるという指摘にとどまっており、なぜ、連用形名詞がこの構文の中でよく使用されるかは説明していない。

2.2 構文「連用形名詞＋が＋様態述語」と不安定な連用形名詞の関係について

Shen (2013) の研究では、国立国語研究所の KOTONOHA 「現代日本語書き言葉均衡コーパス」から得た連用形名詞を分析している。つまり、ある程度一般に認められる「安定的な連用形名詞」を対象にしたものである。ところが一方で、不安定な連用形名詞の用例をみても、この「連用形名詞＋が＋様態述語」という構文で出てくることが多い。不安定な連用形名詞とは、辞書の見出しにあったり、新聞等に出てきたりする「安定している連用形名詞」ではなく、今までさほど注目されておらず、日本人母語話者のレキシコンに定着していないような連用形名詞のことである。不安定な連用形名詞と構文「連用形名詞＋が＋様態述語」の関係については、Duong (2014) において既に指摘しているところである。Duong (2014) では「全ての動詞の連用形が名詞化できる」という仮説を立て、単独では最も名詞化しにくいとされる動詞グループの連用形を対象にそれが名詞として使用される用例を採集することによりその仮説を証明した。最も名詞化しにくいとされる動詞とは沈 (2013) によって最も名詞化しにくいとされた公式「下位事象＋上位事象」を持つ動詞で、具体的には、「開ける」、「空ける」、「奪う」、「着ける」、「食べる」、「はく」（「履く」「穿く」）、「貼る」、「減らす」、「沸かす」の9の動詞である。また、「連用形が単独では最も名詞化しにくいとされる動詞グループ」を対象にするので、Duong (2014) では他の先行研究と異なり、辞書の見出しや新聞等からではなく、ブログやコマーシャル、フォーラムなどから連用形名詞の用例を検索した。

以上の9つの動詞を対象に、その連用形が名詞として使用されるかどうかをインターネット検索エンジンであるグーグルで検索した結果、9つの動詞連用形全てに、単独で名詞として使われる用例が見つかった。それぞれの動詞の連用形が名詞として使用されている用例数は「開け」154例、「空け」29例、「奪い」117例、「食べ」226例、「着け」17例、「はき」28例、「貼り」239例、「減らし」76例、そして「沸かし」124例である。このように、一見名詞化できそうにない動詞の連用形も名詞として使用される用例が少なくない。また、それぞれの用例をみると、「連用形名詞＋が＋様態述語」という構文での用例も多く、全部で100例あった。例えば、

(ア)「ガムテープの貼りが汚いです。すみません」

<http://kamenihito.blog.fc2.com/page-2.html>

（イ）事細かに聞いてくださって、ほんとにありがとうございます！大変参考になりました！まだまだ靴下の履きがあまいですね～。

<http://shop.plaza.rakuten.co.jp/841t/diary/detail/201010110000>

従来、これらの文で使用される連用形名詞は、省略か誤用であるという見方がされてきた。つまり、（ア）の例文では、「貼り方」の「方」を省略して「貼り」としてしまったり、（イ）の場合には、「履き方」の「方」を書き忘れたと解釈されることがある。しかし、これほど用例があることから、単純に誤用や省略という問題では片づけることはできないと考えられる。なぜ、単独の動詞連用形の容認度の高いものから低いものまで多くの連用形名詞がこの構文の中によく出てくるのか、この構文の使用により表現としてどのような効果があるのか、次節では、Duong（2014）での用例を分析しながら、考察する。

3. 構文「連用形名詞＋が＋様態述語」と評価の場面

「貼り」という連用形名詞は一般には誤用か省略としてみなされる傾向があるが、例えば、以下のような用例がある。

（1）「ガムテープの貼りが汚いです。すみません」

<http://kamenihito.blog.fc2.com/page-2.html>

この文に使われている「貼り」は、誤用か何らかの省略であるという見方があるかもしれないが、もし誤用であればより正しい表現に直せるはずである。では、他の表現に置き換えてみるとどうなるだろうか。

- （2）a ガムテープを汚く貼りました。すみません。
- （2）b ガムテープが汚く貼られました。すみません。
- （2）c ガムテープの貼り方が汚いです。すみません。

以上のどれに置き換えても違和感を覚えるのではないだろうか。（2）a に置き換えると、動作主がわざとテープを汚く貼ったようなニュアンスがある。また、（2）b では受身文なので、一見、客観的に描写する文のように見えるが、話し手ではなく、他の誰か（例えば子どもや部下等）に汚く貼られてしまって話し手も被害受身であるようなニュアンスがあると思われる。さらに、（2）c に置き換える場合もやはり違和感を感じる。なぜなら、それは（1）で使われている「汚い」という形容詞の対象が、本当に「貼り方」というはっきりしたものかどうか、確信できないからである。「ガムテープの貼りが汚いです。すみません」という発言の「貼り」は、「貼る過程」や「貼った結果」などを総合的に言い表すものであ

る。つまり、明確に「貼り方」、「貼り具合」、「貼り加減」のどれかひとつだけを表しているのではないように思われる。

どれに置き換えても違和感を覚えるということは、つまり、ここに挙げた「貼り」のような単独の連用形名詞は実は誤用ではなく、ある効果を狙って、意図的に「連用形名詞＋が＋様態述語」という構文で使われているのではないかと思われる。先で置き換えてみたように、「連用形名詞＋が＋様態述語」の表現で使用される連用形名詞は特定の意味内容を持たず、何らかを包括した全体的な意味内容を示しているように思われる。では、なぜこのように曖昧な意味合いを持っている連用形名詞が使用されるのだろうか。

「連用形名詞＋が＋様態述語」では、連用形名詞は何らかの効果を狙って使われていることが考えられる。具体的にいうと、その効果は「動作主」を明確にしたくないというものである。通常の動詞を使うと、上記の(2) a (ガムテープを汚く貼りました。すみません)や(2) b (ガムテープが汚く貼られました。すみません)のように、誰かが故意にガムテープを汚く貼ったというニュアンスを与え、動作主の意志を感じさせてしまう。しかし、(1)のような使い方(ガムテープの貼りが汚いです。すみません)では、連用形名詞を使うことによって、誰かが故意に汚く貼ったのではなく、ただそこに貼られたガムテープの状態が汚いというように、動作主の意志ではなく連用形名詞に後続する形容詞に注目させる効果がある。特に、否定的評価の際に使用すると、動作主を曖昧にし、動作主の責任を軽減するという役割も果たすのではないだろうか。

Duong (2014) での 100 例を見ると、「酷い」や「汚い」、「甘い」等、マイナスの意味を表す形容詞・形容動詞を含む用例の数は 66 で、全体の 66% を占める。このような表現は他人に対して何かを評価する時や、自分のしたことについて知らせる・評価する時に使われている傾向がある。そこで、次節では、具体的に(a)「他人のしたことに対する否定的評価」と(b)「自分のしたことについての否定的評価」の 2 つの場合において、連用形名詞の使用がそれぞれどのような効果を生むのかを検討したい。

3.1 他人のしたことに対して否定的評価をつける時

まず、他人のしたことに対して否定的評価をつける時、述語に動詞を用いずに、「連用形名詞＋が＋様態述語」を使うことで、状態性を表す構文になるために、動作主が明示されなくなる。例えば、次のような例をみると、それがより明確にわかるのではないだろうか。

(3) 本日有楽町ビックでブルーの機種を触っていましたが、全く同じように e の文字のロゴが剥がれていました。全体的に貼りが甘いのではないのでしょうか？

(<http://bbs.kakaku.com/bbs/K00000008812/SortID=9463693/>)

上記の文はコンピューターを取り扱う通販サイトに投稿されたレビューである。当該コン

ピューターのロゴの文字の一つが剥がれていて綺麗だとはいえない状態であり、これに対するコメントとして「貼りが甘い」という表現が使用されている。このような表現により、「誰かが雑な作業を行った」ということから焦点をずらし、「結果としてそのような状態になった」ということだけに注目させることができる。このように「連用形名詞＋が＋様態述語」という構文を使用することにより、動作主を明確にしないで、物事の状態に対して評価を述べるができるため、動作主が特定できない場合や動作主を明示して気まずくしたくない場合に、このような表現が意識して使用されるのではないかと思われる。他にも(3)と同じような評価文として以下の用例が挙げられる。

(4) 味も変わらないなあ。今日は沸かしが長かったのか、塩分がやや強めに感じたけど前回は麺切れ直前はそうだったかな。

(<http://www.chibaraumen.com/report/tomita.html>)

(5) チップはとても綺麗ですし、重量感もあります。現象も説明にある通り、最初は子供だましのものかと誰しも思いますが、続く変化に驚いてもらえます。★ひとつマイナスなのはカラー部分の貼りが若干甘かった為。この価格なので、塗装だったらいいのですが・・・現象も良いしその他の部分は綺麗だったので惜しいですが、初心者にもできるのでおすすめ!

(<https://www.frenchdrop.com/detail?id=403>)

3.2 自分のしたことについての否定的評価

次に、(b)「自分のしたことについての否定的評価」の効果について述べたい。自分のしたことについて否定的評価を表示する場合、「連用形名詞＋が＋様態述語」という構文を使用することによって、自分が「故意に」ではなく、自然にそのような状態になったことを表すことができ、自分の責任を回避することができるのではないかと思われる。例として次のようなものがある。

(6) あと、今さらのご注意なのですが...私の作るものはハンドメイドです。取れにくいように細心の注意を持って作っておりますが、稀に着けが甘くパーツがとれてしまう物もございます事もありますので、ご了承ください。

(<http://www4.hp-ez.com/hp/hanajishikoubou/page4/bid-204268>)

上記の文はアクセサリーの展示・販売サイトの投稿である。ここで、「着けが甘い」という表現によって、自分の店の商品に欠陥が出る場合についてあたかも故意にではないというように、客観的に描写することが可能となる。この表現により、直接的にその動作主について言及することが避けられる。つまり、自分の行為について否定的評価を下す場合も、

「連用形名詞＋が＋様態述語」という構文を使用することにより、自分が「故意に」そうしたのではなく、自然にそのような状態になったということを表現することができ、責任を回避することができるのである。ちなみに、「あまい」という形容詞は、「動詞連用形＋が＋様態述語」という構文によく使用される語である。(6)と同じ意味合いの表現は他の動詞連用形に関する用例から見られる。

(7) 事細かに聞いてくださって、ほんとにありがとうございます！大変参考になりました！まだまだ靴下の履きがあまいですね～。苦にならないようにがんばります！笑

(<http://shop.plaza.rakuten.co.jp/841t/diary/detail/201010110000>)

(8) 試作品。キーケースです。

まずは自分用を作ってみるのですが、今回は接着芯の貼りが...イマイチ。

生地を変えて作ってみた方が良さそう。

もうちょっと、頑張ってみます。

(<http://cotcotcot.exblog.jp/12965768>)

上述の通り、「連用形名詞＋が＋様態述語」の構文の使用は、動作主の明示を避け、その動作によってもたらされた結果のみに注目させる効果がある。このような表現を使用する場合、一番伝えたい内容は一番後ろの「様態述語」(形容詞/形容動詞)の部分にあると思われる。ここで使用される形容詞/形容動詞もまた曖昧な意味を有するものが多い。66の用例をみると、「あまい」(甘い)という形容詞が最も多く使用される形容詞で、全部で13例がある。「あまい」に次いで二番目に多いのは「雑」で、全部で9例である。他に、「イマイチ」も2例出てくる。「あまい」や「雑」「イマイチ」は、「汚い」や「遅い」、「醜い」などのようにどのようにマイナスなのかを明確に表す形容詞とは異なり、曖昧な意味合いを持っている。これらの単語は同じく曖昧な意味合いを持っている動詞連用形と結合して非常に曖昧な評価の表現を作り出すことができる。「履きが甘い」や「貼りが雑」、「ご飯の食べがイマイチ」等というような表現を使用することにより、確かに否定的評価を下しているのだが、具体的に何が悪いのか、どのように悪いのかについては明言していない。このような表現を相手进行评估する際に使用すると、その曖昧さにより相手を直接避難することを避けることができる。また一方で、自分のしたことに対して否定的評価を述べる時には、その曖昧さによりマイナスの詳細がどのようなことであるのかという具体的なマイナス表示を避けることができる。このように、「連用形名詞＋が＋様態述語」という構文は巧みに否定的評価を表すことができる構文なのである。

4. 終わりに

「連用形名詞＋が＋様態述語」という構文は、動作主の明示を避けて、行為だけを評価

するという効果がある。この表現を使用することにより、動作主の意図を曖昧にして、その動作によりもたらされた結果だけを客観的に描写することが可能となる。そのため、この表現は他人に対して否定的評価を述べる時や、自分のミスなどについて述べる時など、否定的評価によく使用されるのではないかと思われる。また、後の「形容詞・形容動詞」に「甘い」や「雑」「イマイチ」などはっきりした意味を有しない形容詞を使用することで、マイナスの出来事の明示を避ける効果が高められるせいか、この構文にはそれらの形容詞がより好まれる傾向がある。

動詞連用形の名詞化については、これまで多くの研究が、場所を示す名詞（例えば「受付」）や人を示す名詞（例えば「酔っ払い」）等、名詞化した後の連用形の意味について分類を行った研究が多い。しかし、実際には、特定の意味を持たず、曖昧な意味合いのまま使用される連用形名詞も多いのではないかと考えられる。曖昧な意味を持っているからこそ、否定的評価を下す時に、相手を傷つけずに事態を述べることができる。今まで誤用として片づけられてきた連用形名詞は、実はこの「連用形名詞＋が＋様態述語」という構文の中でこそ、その存在が明らかとなり、婉曲的な評価を担うものとして認められるのではないかと思われる。

参考文献

- 影山太郎（1998）『動詞意味論』くろしお出版
- 影山太郎（1999）『形態論と意味』くろしお出版
- 金美淑（2003）「日本語の連用形名詞」名古屋大学大学院文学研究科博士論文
- 田中章夫（1999）『日本語の位相と位相差』明治書院
- 陳世娟（2003）「和語動詞の名詞化についての一考察－単純動詞 734 語を中心に」『東洋大学大学院紀要』40 号
- 陳世娟（2006）「単純和語動詞の名詞化についての一考察－位相から見る「切り」と「切れ」の意味用法を中心に」『東洋大学大学院紀要』43 号
- 西尾寅弥（1961）「動詞連用形の名詞化に関する一考察」『国語学』43
- Duong, Thi Hoa（2014）「連用形名詞の使用をめぐって」大阪大学言語文化研究科修士論文
- Shen, Chen（2013）「日本語連用形名詞の自立性の段階について」『第 4 回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』
- 沈晨（2013）「日本語動詞名詞化における動詞の語彙意味による制約について」『日本語文法学会第 14 回大会発表予稿集』

使用した辞書：

『日本語基本動詞用法辞典』（1989）大修館書店

『日本国語大辞典』（第二版）小学館